

ふれあい 生きあい ささえあい

○“ヤングケアラー”、このことば、近ごろよく目にしますね○

●ヤングケアラーというと——皆さんもある事件を思い出すでしょう。いたいけな幼い子が亡くなり、その子をととてもかわいがってたはずのお兄ちゃんが一生罪を負って生きなければならなくなった、あの痛ましい事件のことです。

勉強したい遊んだり、校外での体験活動や修学旅行に、また、部活に汗を流したい人のためのボランティアに励んだいなどなど、将来へ向けての成長を謳歌することもならず、親や幼い弟妹の世話や家事などもこなし、働けない親に代わって家計をささえ進学も諦めなければならず、こういうことに日々を追われながら生きる子どもたちがいます。

子どもたちに辛い生き方を強いる社会は「おかしい！」と言うのは易いことですが、いま現実に目の前のそうした子どもたちをなんとかしなければとがんばっている人たちがいます。ここに紹介する幸重(ゆきしげ)忠孝さんもそういう活動を何年も続けてこられた人です。ひとの世話で子どもらしい生活を送れないでいる子どもたち、いまコロナ禍の中でますますの困難と生きづらさを抱える子どもたちのために、何かしてあげられることはないのかということ、幸重さんと一緒にみんなで考えてみたいと思います。大津市中部ブロック社協(6学区)主催による「地域福祉講座」、ご一緒にいかがですか。車に乗り合わせて行くこともできます。



地域福祉講座 ○“ヤングケアラー”について考える○

お話 幸重忠孝さん (NPO 法人 こどもソーシャルワークセンター理事長)

日時 2022年11月24日(木) 午後2時~3時半ごろ

場所 明日都浜大津ふれあいプラザ5階 大会議室 (希望者は車に乗り合わせて)

◆申込み(定員あり): 学区社協楠本(529-0149)または、まち協事務室(529-2299)まで。

○再び赤い羽根の話にもどって○

●わが学区の「戸別募金」はゼロ——10月1日の街頭募金に始まり12月末まで続く赤い羽根の募金活動ですが、自治会から封筒がくばられてする赤い羽根の「戸別募金」で集まるお金は、当学区では去年はゼロ円でした。ということで学区社協としては、担当する「大口募金」に力を入れています。赤い羽根よりもっとしてあげたいところがあるという方も多いと思いますが、ご協力いただける方は、どうかよろしく願いいたします。

隔月で行なわれるまち協の「コミセンマーケット」でも、「赤い羽根ミニバザー」で参加していますので、不要となったものなどのご寄付を募っています。こうしたご協力もどうかよろしくお願いいたします。

(学区社協楠本 529-0149、谷 529-2145、民児協佐敷 529-2748 まで)

○11月も「お食事券」によるひと親家庭と地域の食べもの屋さん支援を続けます○